

週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎(752)0453 小林えみ子 ☎(482)5451

発行

日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5
☎(483) 1151

◇◇◇ 図書館のあり方検討のワークショップ始まる ◇◇◇

図書館のワークショップが10月4日より始まりました。

そもそも「ワークショップ」とは何ですか?との問いがありますが、「学びや創造、問題解決やトレーニングの手法として用いられ、参加者が自発的に作業や発言をおこない、司会進行役を中心に参加者全体で体験、運営される」ものです。

今回の図書館ワークショップでは、「図書館の運営費と市民サービスの適切なバランスについて、グループ討議を行う」ものです。4日のワークショップでは、公募9人、無作為抽出18人の計27人を3グループに分けて討議がされました。

市から出されたA～Gの7案を見てみますと

(中央図書館の開館時間は9時から20時の予定、休館した場合は公共施設で本の返却)

- A案・・・地域図書館4館(大和田、八千代台、勝田台、緑が丘)休館、中央図書館は運営
- B案・・・大和田、八千代台を休館、緑が丘は指定管理者制度導入、中央図書館は運営
- C案・・・大和田本館は休館し児童館は運営、緑が丘は指定管理、中央図書館は運営
- D案・・・緑が丘は指定管理、他3館は職員削減、中央図書館は運営
- E案・・・D案の内容で地域図書館4館のみ週2日の休館日
- F案・・・D案の内容で中央図書館を週2日の休館日
- G案・・・F案の内容で中央図書館の開館時間を10時から18時と短縮



市の提案では、地域図書館の市民サービスの削減は明らかであり、多くの市民が望んでいる地域図書館の充実には全く応えていません。

参加者からは「地域図書館の合理化だ」「賛成できる案がない」「中央図書館ありきの議論だ」との意見が出され、事務局からは「案があれば提案してもよい」ということになりました。

◇◇◇ 意見のとりまとめはどうなるのか ◇◇◇

2回開かれた図書館ワークショップで、3グループからは様々な意見が出されました。

- ・図書館はすべて直営にすべき
- ・中央図書館の規模縮小
- ・大和田図書館は教育委員会、教育委員会は中央図書館、中央図書館は地域図書館規模に
- ・中央図書館のオープンを延期
- ・4館の休館はすべきでない

裏面に続く→

- ・図書館費が年々減っている。そこから見直す
- ・4館の充実を行ってから新たな図書館を増やす

以上の他たくさんの意見が出ました。

これからどのようにまとめられていくのか、あまりにも多くの意見が新案として出されていることから、参加者の中からも疑問の声が上がっています。

◇◇◇ 議会での答弁とも喰い違う地域図書館削減 ◇◇◇

質疑の中でも新たなことがわかってきました。中央図書館に46万冊の蔵書予定と議会の中で以前答弁がされていました。当時は地域図書館の事にはなんら触れていませんでした。しかし、開架冊数17万冊のうち8万冊は地域図書館から移管するとの回答。地域図書館削減ありきの解答です。また、図書館費用についても6億3千万円におさえたいとの考えであることを明確に答えています。中央図書館を強引に建設せずに既存図書館を充実させるには十分な費用です。

市は、「今さら中央図書館を休館、会館の延期へとした場合は交付金の返還などが見込まれる」との回答をしています。しかし、維持管理運営経費は大幅に削減できるとも回答しています。

3回目のワークショップは、10月26日(日) 15時から 総合生涯学習プラザ3階で行われます。傍聴ができるようになっていますので、多くの方に足を運んでいただけたらと思います。